

# 徳島県職業能力開発校（テクノスクール）のあり方

## 1 現状

### （1）施設内訓練

R6.3.31現在

校名	訓練期間	コース	定員	入校率	就職率
中央テクノスクール（徳島市）	2年／1年	6	100	41.0%	94.7%
南部テクノスクール（阿南市）	2年／1年	2	35	51.4%	95.5%
西部テクノスクール（美馬郡）	1年／6月	4	75	45.3%	76.0%

※就職率はR5年度修了生対象

### （2）在職者訓練

在職者を対象として、業務に必要な技術・技能・知識のレベルアップを図る短期間の訓練を実施

令和5年度 ○47コース 106事業所の157名が受講

### （3）委託訓練

求職者を対象として、民間教育訓練機関をはじめ、大学、事業主、職業訓練法人、NPO法人等の幅広い教育訓練資源を活用し、効果的な職業訓練を実施

令和5年度 ○39コース 323名が受講



## 2 課題

---

### (1) 業界ニーズへの的確な対応

産業構造の変化に伴う業界ニーズを注視し、将来に向けた県内企業における人材確保への的確な対応が必要である。

### (2) 少子化に伴う入校者数の減少

少子化に伴い、テクノスクールの入校者数が減少し、近年、入校率が大きく定員割れの状況にあり、求職者ニーズに、より適合した訓練科を設置する必要がある。

### (3) 官と民との重複した訓練科の解消

地域の実情に応じた職業訓練を推進する上で、関係機関と連携を図りつつ、民間教育機関と重複した訓練科の解消について検討する必要がある。

### 3 基本方針

---

人口減少や少子化による労働力不足の中、産業界における人材ニーズへの対応や、「徳島バッテリーバレイ構想」による蓄電池人材の育成を踏まえた第12次徳島県職業能力開発計画(令和8～12年度)の策定に向け、職業能力開発校（中央テクノスクール、南部テクノスクール、西部テクノスクール）について、各訓練科の見直しを行い再編を実施する。

#### 【再編の考え方】

- (1) 業界ニーズに応じた「訓練科の再編」と「カリキュラムの見直し」
- (2) 少子化の流れを踏まえた「組織のスリム化」
- (3) 民間との「役割分担の見直し」や「積極的な交流」

#### 【参考 主な見直し】

平成25年度 中央テクノスクール開校（中央、南部、西部校の3校体制に再編）  
令和3年度 ボデーリペア科（2年制）→自動車整備科：3級課程（1年制）に改編  
塗装技術科 → カラーコーディネート塗装科に改称  
令和5年度 設備施工科 → 休科（令和7年度より）